

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870800202
法人名	医療法人雄康会
事業所名	グループホーム レオナ 2Fユニット
所在地	愛媛県四国中央市金生町下分1423
自己評価作成日	H21年 1月 31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年8月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方と顔の見える関係が築けるように 近所の散歩や近所の行事にできるだけ多く参加しています。グループホームが特別な場所でなく 近所としてお付き合いしていけるように力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して8年を経過しているが、職員の異動が少なく継続して落ち着いた支援ができています。母体である病院が地域に根ざしていることもあり、利用者は近隣の人が多く、地域との関わりも自然に出来ている。利用者と職員の関係も家族のような温かい印象を受ける。利用者は一人ひとりの能力に応じた活動の場があり、いきいきと生活している。食事のメニューや外出も、利用者と職員が話し合いながら計画している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームレオナ

(ユニット名) 2Fユニット

記入者(管理者)

氏名 管理者 森実恵子

評価完了日 H21年 1月 31日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 2年くらいの間に入所者の入替わりがあったので入所者と共に 理念を新たに作成したいと思っている。理念が実践につながるように 機会あるごとに話し合いをしている。</p> <p>(外部評価) 一昨年、職員と利用者が話し合って思いを込めた理念を作りあげ共有している。各ユニットごとの理念や目標も掲げて、ケアの実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 天気のよい日に散歩に出かけて挨拶をしたり声をかけて頂いたり、またホームに訪問してもらいお茶をしたりすることもあり 日常のお付き合いをしている。</p> <p>(外部評価) 散歩やスーパーに出かける時に近隣の方から声をかけてもらったり、野菜をいただくなど、自然にあいさつを交わす関係ができています。地域行事への参加は恒例となり、利用者の楽しみになっている。ホーム主催の行事等にも地域の方に参加してもらっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 高齢者で悩んでいる方の悩み相談に応じれる対応をいつでも受付している。1人暮らしのお宅を訪問することもある。近所を散歩する時も 気かけながらコースを選んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議の中で行事の報告や苦情を受付している。地域の事情に詳しい方に意見を聞き 外部から見た視点を取り入れて 色んな角度から見て改善に生かしている。	
			(外部評価) 会議では報告と活発な意見交換ができており、出された意見などは職員間でも共有し改善につなげている。利用者をはじめ家族の参加もあり、違った視点からホームを見ていただくよい機会となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 分からない事は 市役所窓口にお問い合わせする事もある。市全体で取り組むキャラバンメイトに積極的に参加している。	
			(外部評価) 市の担当者へのごろの相談や市全体で取り組んでいるキャラバンメイト事業への参加、また定期的なふれあい相談員の来訪など、積極的に協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ベットの柵を転倒防止のためにしている人もいるが、基本的には使用していない。身体拘束については、掲示し全員が理解している。	
			(外部評価) 職員は身体拘束をしないケアの大切さを学んでおり、よく理解して拘束しないケアを実践している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待について理解できるように 掲示し見過ごすことがないように 互いに点検している。介護ストレスが虐待につながらないように話し合いの機会を多く持っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在 利用者はいない。必要があれば 関係者と話し合う体制はある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 家族と利用者の方との話し合いの機会を多く持ち丁寧にはなして 理解と納得を求めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 不満、苦情を全員で共有し運営に反映させている。ふれあい相談員の方や傾聴ボランティアの受け入れをして受け止める体制をしている。 (外部評価) 家族の来訪時の対応など、普段から意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。利用者が思いや希望を言えるように、日頃から職員が意識して支援するとともに、ふれあい相談員や傾聴ボランティアをホームに受け入れて意見等の聴取に努めている。ホーム内及び外部機関の苦情等申し立て先を明示し説明もしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々のミーティングや 懇親会で話し合いの機会を設けている。 (外部評価) 日常の業務やミーティングで、職員が自由に意見や提案を出し合える雰囲気づくりに努めており、管理者は意見などを取り上げて、話し合いを行い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の資格取得に向けて支援している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 力量にあった外の研修に参加できる機会を確保している。 希望の研修に参加できるように 可能な限り機会を作っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他グループホームを訪問したり 行事に案内したりしネットワークが広がるように取り組んでいる。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 1対1でゆっくりと話し合う機会を作っている。 寄り添いながら不安を理解できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査を詳しく行い 信頼関係を作るように努力している。家族参加で話し合いの機会をもち ちょっとしたことでも話し合うようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本当に必要としている事、言いたい事を理解できるように話し合いの機会を多くもち 支援を見極めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒にテレビを見たり 外出時に一緒に食事をしたり 喜怒哀楽を共に味わい 楽しく生活している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事イベント参加、外出時の家族の参加をしてもらい また 訪問時には日々の生活を詳しく話し 共に支えていく関係を作っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 散歩中には馴染みの人と交流できている。お墓参りにいきたい時は一緒に行っている。 散歩コースも考えて行っている。 (外部評価) 地元出身の利用者が多いため、日常的に墓参りや馴染みの場所へ出かけることができ、近所の友人がホームを訪ねてくることもある。家族の協力を得て本人の希望するところへも出かけている。電話をかける、手紙を出すなど馴染みの人との関係を継続させる支援も日常的に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握し かかわり合える工夫をしている。みんなで一緒にできる作品作りなどを行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 終了しても行事案内をしている。 道で会うと挨拶し 立ち話をして交流している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 昔の生活ぶりを話題の中に入れてよく話しあう。 家族から情報を得ている。	
			(外部評価) 日常会話の中で、昔の生活や経験を傾聴し、家族からも情報を得て、思いや意向を把握している。センター方式を利用し、より本人本位となるよう役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 生活歴や馴染みの暮らしを 家族との会話の中で経過の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 健康状態の把握、生活リズム、行動や動作から感じとっている。介護記録は出勤日でない日の所も目を通し把握するようにしている。申し送りや口頭で話しあっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ホーム内で安心して暮らせるように 話し合いし 介護計画を作成している。よりよいアイデアが取り入れられるように 家族の参加を求めている。	
			(外部評価) 利用者毎に担当職員を決めており、カンファレンス（援助を行うための検討会議）で職員全員が意見を出し合いながら情報共有し、定期的な計画の見直しをしている。家族にも会議への参加を呼びかけており、利用可能な方は参加してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 気付いたことは 個別に詳しく記録し 介護計画に生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人の希望をできるだけ実現できるように 家族の支援をしあながら 柔軟に支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ふれあい相談員、傾聴ボランティアの方の協力を得て 悩みや相談、交流を持ち 安心して地域で暮らせるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人や家族の希望で医療が受けられるようにしてい る。 医療機関との連絡を密に行っている。</p> <p>(外部評価) 併設の医療機関と連携しており、必要時には他の医療 機関の受診も可能で、利用者が適切な医療を受けられ るよう支援している。家族が受診に付き添った時など は、看護師である職員が中心となって、情報共有に努 めている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 看護師に気軽に相談にのってもらえる関係を築き 日常生活の留意点や健康管理に気をつけている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院した時は 定期的に訪問し病院関係者と退院後の 生活の相談をしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 終末期については、入所時点で話し合いを持ち 入所後は 家族の訪問時には話す機会をもつようにし て意識している。</p> <p>(外部評価) 終末期の方針については、入居時に説明しその後も家 族等と話し合う機会を持つようにしている。必要時に は医師との連携も図っている。看取りの経験もあり、 今後のケアに活かせるよう話し合うなどチームで積極 的に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命講習会を消防本部で 年1回受講している。 利用者の急変時は	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 月1回行う月例会で 災害時の非難経路を確認し連絡手段についても話し合いをしている。 地域との協力体制は自治会内で周知して頂き協力体制を築いている。 (外部評価) 夜間想定も含めた定期的な訓練を実施し、地域の協力体制も得られるようになった。火災以外の災害については、具体的な想定に基づく十分な体制が整っているとまでは言えない。	地震や台風時の避難など、具体的に想定した防災訓練を行い、マニュアルも含めた見直しなどの取り組みに期待したい。備蓄や救急用品など、地域の一員としてホームが協力可能なことについても今後、検討を重ねていくことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) その人に応じた声かけを行っている。 (外部評価) 職員は、日ごろから利用者一人ひとりの人格を尊重するよう言葉かけなどに配慮している。内容によっては、職員間で再確認し対応を話し合っている。個人ファイル等の取り扱いは十分に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者、家族の希望を聞き 本人の想いをくんで納得できるように暮らせるように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 声かけし 今日することの話題作りをし 皆で取り組めることをしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 以前から利用していた美容室や 近所の見洋室、理髪店 にいかれる方もいる。ホームに美容師が訪問して 散髪もしてくれる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 何が食べたいか テレビを見ながら話している。 調理は出来ない人もいるが、献立は皆で話し合い取り入れるようにしている。片付けは皆で分担して行っている。 (外部評価) 利用者と職員はテレビや本を一緒に見ながら、会話の中で好みの食事を引き出し、すぐにメニューに取り入れている。利用者の能力に応じて調理、味付け、盛り付け、後片付け等の役割を担ってもらっている。職員も一緒に食事をとりながら利用者を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分量を1日と通じて把握できるように記録している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 入れ歯の洗浄は寝る前にポリドントして清潔にしている。歯茎の掃除は お茶でウガイし、各自でマッサージしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) オムツ利用の方もできるだけトイレで排泄できるように誘導している。排泄パターンは記録で把握し気持ちよく排泄できるように支援している。	
			(外部評価) 個々の排泄パターンを把握し、声かけや誘導などの細かい支援を心がけている。トレーニングパンツ・パット等、昼夜の対応も利用者の状態に応じて工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便記録をしている。ラジオ体操、歩行訓練、金魚運動、電動バイクを使用し身体を動かすように取り組んでいる。 牛乳、ヨーグルト、黒酢も食べてもらっている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 夏場は気持ちよく眠れるように午後から入浴している。 冬場は夕方ゆっくり入浴する希望があるのでできるだけ希望どおり取り入れている。	
			(外部評価) 入浴日をあらかじめ決めて、定期的に入浴しているが、特に必要時や希望がある時には個々に対応している。手すり、床マット、シャワーチェア等を整備し、利用者の状態に応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の体調により入浴したり休めるようにしている。 気持ちよく眠れるように日中は身体を動かしてもらうようにしている。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 用法や用量については 薬を受け取った時に説明を受けている。わからない時は すぐに聞き把握している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 役割分担して食事の片付けや洗濯干し、洗濯たみをしてもらっている。窓拭き、ベランダ掃除、廊下掃除などもしてもらっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は出来るだけ外に出かけて散歩している。 希望があれば モーニングにも出かけている。	
			(外部評価) 散歩、買い物、ドライブ、喫茶店でのモーニングや外食等、利用者と職員で相談しながら日常の外出を支援している。外出する機会が多く、天気の良い日はできるだけ外にでかけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出時は お金をもってもらい 自分で買物ができるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙のやり取りは難しいが 本人の希望にて電話ができるように支援している。全員は難しいが出来る方にはしてもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 四季を感じてもらうために、季節に関係するものを作ったり、飾ったりしている。掃除は徹底し清潔にしている。日光が部屋に取り込めるように工夫している。	
			(外部評価) 行事等の飾りやベランダの草花で季節感を出している。ダンスや物入れ、畳スペース、ソファ等を配置し、各々が自由に過ごせる空間を確保している。トイレ、廊下、風呂等には適切に手すりをつけて安全を確保し、掃除も行き届いており気持ちよく生活できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食堂にソファを置き 入所者同士のコミュニケーションがとれるようにしている。冬場はコタツを置いている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入所前に自宅で使っていたダンス、コタツ、テレビを持ってきてもらい使っている。	
			(外部評価) 家族の協力を得ながら、テレビ、コタツ、ダンス、机、いす、絵、写真など一人ひとり馴染みの物を持ち込んでいる。ベランダで鉢植えの草花を育てたり、洗濯物を干したりと、自分の家のように居心地よく生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下や浴槽の手すりなど使用して自立した生活ができるように工夫している。風呂場には滑り止めを使用している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870800202
法人名	医療法人雄康会
事業所名	グループホームレオナ3Fユニット
所在地	愛媛県四国中央市金生町下分1423
自己評価作成日	H21年 1月 31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年8月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設して8年を経過しているが、職員の異動が少なく継続して落ち着いた支援ができています。母体である病院が地域に根ざしていることもあり、利用者は近隣の人が多く、地域との関わりも自然に出来ています。利用者と職員の関係も家族のような温かい印象を受ける。利用者は一人ひとりの能力に応じた活動の場があり、いきいきと生活している。食事のメニューや外出も、利用者と職員が話し合いながら計画している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームレオナ

(ユニット名) 3Fユニット

記入者(管理者)

氏名 管理者 石川千寿子

評価完了日 H21年 1月 31日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ホーム全体、3Fユニットとしての理念があり 理念を意識して日々介護に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 一昨年、職員と利用者が話し合って思いを込めた理念を作りあげ共有している。各ユニットごとの理念や目標も掲げて、ケアの実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近所のスーパーへ買物に行く時や、花の水遣りをしている時など、自然に入所者からも挨拶の言葉がでたり近所の方も一言二言 声かけをしてくれるようになった。行事への参加も年々増えている。</p> <p>(外部評価) 散歩やスーパーに出かける時に近隣の方から声をかけてもらったり、野菜をいただくなど、自然にあいさつを交わす関係ができています。地域行事への参加は恒例となり、利用者の楽しみになっている。ホーム主催の行事等にも地域の方に参加してもらっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 中学生の職場体験学習やボランティア部の受入、学生さんの実習の受け入れなどを行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 家族にも毎回声かけをして参加を募っている。家族の方や 様々な方面の方からの意見を聞く事ができよい勉強の機会になっていると思う。	
			(外部評価) 会議では報告と活発な意見交換ができており、出された意見などは職員間でも共有し改善につなげている。利用者をはじめ家族の参加もあり、違った視点からホームを見ていただくよい機会となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市の方からふれあい相談員が定期的に来られている。	
			(外部評価) 市の担当者への日ごろの相談や市全体で取り組んでいるキャラバンメイト事業への参加、また定期的なふれあい相談員の来訪など、積極的に協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 現在 身体拘束をしている人はいない。身体拘束については理解していると思う。	
			(外部評価) 職員は身体拘束をしないケアの大切さを学んでおり、よく理解して拘束しないケアを実践している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止関連法をスタッフ室の目のつく所に掲示して意識を高めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在 必要な方はおられない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際は十分に時間をかけ 口頭や文章で説明をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 不満があれば その場で意見を言う事が多く、言いたい事はしっかり表出している。外部の方（ふれあい相談員や傾聴ボランティア）に言う機会もある。 (外部評価) 家族の来訪時の対応など、普段から意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。利用者が思いや希望を言えるように、日頃から職員が意識して支援するとともに、ふれあい相談員や傾聴ボランティアをホームに受け入れて意見等の聴取に努めている。ホーム内及び外部機関の苦情等申し立て先を明示し説明もしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 意見を直接言ってくれる方もいれば、運営推進委員会に出席してもらい意見してくれる方もいる。苦情相談担当職員もおり、また第三者機関として市役所へ行ってもらうように口頭、文書で説明している。</p> <p>(外部評価) 日常の業務やミーティングで、職員が自由に意見や提案を出し合える雰囲気づくりに努めており、管理者は意見などを取り上げて、話し合いを行い運営に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 資格取得の支援や、スタッフの能力に合わせ、仕事を与えてくれていると思う。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修は勤務年数や希望に応じて内容を考えて合ったものをすすめてくれる。また 研修の案内をしてくれる。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 相互評価に毎年参加し 輪を広げている。グループホーム協会の研修に参加し 意見交換に利用している。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入所申込み時、契約時にそれぞれ面会し、しっかり話を聞いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所申込み時、契約時にそれぞれ面会し しっかり話しを聞いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 以前は精神科の訪問看護サービスを利用している人もいたが 現在はいない。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) できる事は何でもしてもらっている。 壁を作らず いつも傍にいて喜怒哀楽を共にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会に来られた時も 職員や入所者も交えて雑談しよい雰囲気作りを心がけている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知り合いや近所の方が訪ねてくれたり、入所者の方から手紙を出したりしている。 (外部評価) 地元出身の利用者が多いため、日常的に墓参りや馴染みの場所へ出かけることができ、近所の友人がホームを訪ねてくることもある。家族の協力を得て本人の希望するところへも出かけている。電話をかける、手紙を出すなど馴染みの人との関係を継続させる支援も日常的に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 散歩の時、職員と一緒に手を引いてくれたり、できる事に合わせて手助けし合えていると思う。 食堂で過ごすことが多いので 関わりは多い。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所された方は1人いますが、職員が訪ねて行ったり行事があれば誘ったりしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式のアセスメントを利用し、思いを汲み取るように努めている。	
			(外部評価) 日常会話の中で、昔の生活や経験を傾聴し、家族からも情報を得て、思いや意向を把握している。センター方式を利用し、より本人本位となるよう役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族の方に聞いたり、利用者には日々の会話の中から聞いていると思う。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 1日の過ごし方は介護記録に細かく記入している。 有する力ではできない事シートを利用し、把握できるようにしている。心身状態→バイタル	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 可能な方は本人に参加してもらっている。家族には説明と同意はしてもらっているが、なかなか参加してもらえていない。	
			(外部評価) 利用者毎に担当職員を決めており、カンファレンス（援助を行うための検討会議）で職員全員が意見を出し合いながら情報共有し、定期的な計画の見直しをしている。家族にも会議への参加を呼びかけており、利用者も可能な方は参加してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケアチェックも細かく記入し、介護計画もスタッフが目を通し 申し送りをしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 行きつけの美容室への介助、選挙へ行く介助などしている。要望があれば検討し支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ふれあい相談、傾聴ボランティアの方が定期的に来訪してくれている。中学生のボランティア部の方も来てくれるようになった。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 併設の診療所と連絡し 適切な医療が受けられるよう に している。必要、希望に応じて他の医療機関にも受診 してもらっている。</p> <p>(外部評価) 併設の医療機関と連携しており、必要時には他の医療 機関の受診も可能で、利用者が適切な医療を受けられ るよう支援している。家族が受診に付き添った時など は、看護師である職員が中心となって、情報共有に努 めている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 看護職員や併設の診療所の看護師は入所前から利用者 を 知っている方も多く、長年の付き合いとなっており、 気軽に に相談できている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時は頻繁にお見舞いに行き 病院関係者に状態を 尋ねたり、退院後の支援がスムーズにいくように相談 に 乗ってもらっている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) これまでも何人か看取ったが、医師、家族、職員を 交え話し合いを行ってきた。契約時にも意見を聞くよ うに している。</p> <p>(外部評価) 終末期の方針については、入居時に説明しその後も家 族等と話し合う機会を持つようにしている。必要時に は医師との連携も図っている。看取りの経験もあり、 今後のケアに活かせるよう話し合うなどチームで積極 的に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 昨年 全職員が消防署の救急講座を受けている。 教材ビデオ等もあり 個人学習も可能である。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 自治会の方とのつながりも出来、自衛消防団の協力が得られるようになってきている。職員は防災訓練を行っている。 (外部評価) 夜間想定も含めた定期的な訓練を実施し、地域の協力体制も得られるようになった。火災以外の災害については、具体的な想定に基づく十分な体制が整っているとまでは言えない。	地震や台風時の避難など、具体的に想定した防災訓練を行い、マニュアルも含めた見直しなどの取り組みに期待したい。備蓄や救急用品など、地域の一員としてホームが協力可能なことについても今後、検討を重ねていくことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人のファイルはスタッフ室に保管している。 大事な話はスタッフ室で行うようにしている。 言葉かけは個人に合わせ対応の方法を変えている。 (外部評価) 職員は、日ごろから利用者一人ひとりの人格を尊重するよう言葉かけなどに配慮している。内容によっては、職員間で再確認し対応を話し合っている。個人ファイル等の取り扱いは十分に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 「今日は何する?」「どこ行きたい?」「～したい」「～食べたい」と意見を言ってくれていると思う。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日程や時間割などなく、その日の天気や入所者の気分によって1日を過ごせていると思う。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入所前からの馴染みの理美容室へ行くのを楽しみにされている方や美容室でパーマをあてる方などもある。ボランティアの方も来て貰える。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) できる事をそれぞれに合った方法で行っている。食器拭きや片付けなど。調理や味付けや下準備をしてもらっている。	
			(外部評価) 利用者と職員はテレビや本を一緒に見ながら、会話の中で好みの食事を引き出し、すぐにメニューに取り入れている。利用者の能力に応じて調理、味付け、盛り付け、後片付け等の役割を担ってもらっている。職員も一緒に食事をとりながら利用者を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分量は介護記録に記入し把握している。お茶を飲みたがらない人には野菜ジュースを飲んでもらったりしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎日義歯は洗いに浸けている。週1回はポリドントを使用している。夕食後は皆さん歯磨きをしている。できる事をしてもらっている。歯ブラシの大きさ、硬さを変えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 尿意の訴えない方も時間をみてトイレ誘導している。	
			(外部評価) 個々の排泄パターンを把握し、声かけや誘導などの細かい支援を心がけている。トレーニングパンツ・パット等、昼夜の対応も利用者の状態に応じて工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 牛乳を飲んだり 野菜を多く摂ったりと食事面に気を配っている。歩行練習やラジオ体操で身体を動かしている。 センナ茶を飲む方もいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 曜日は決めているが、希望があればいつでも入れるようにしている。入浴時間の中で ゆっくり気持ちよく入ってもらえるように支援している。	
			(外部評価) 入浴日をあらかじめ決めて、定期的に入浴しているが、特に必要時や希望がある時には個々に対応している。手すり、床マット、シャワーチェア等を整備し、利用者の状態に応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中はなるべく活動してもらい、夜間の安眠につながるようにしている。就寝時間も個人に合わせて 遅くまでテレビを見る人や 早く休まれる人まで様々です。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬剤管理表に記入し確認している。 わからないことはかかりつけ医に聞いている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ベランダや玄関で花を育てたり、新聞折りで内職を思い出す人もいる。気晴らしはドライブや散歩にでかけ 最近では観劇にも行くようになった。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気や気分によって 戸外へ出ている。ドライブなどが 多い。	
			(外部評価) 散歩、買い物、ドライブ、喫茶店でのモーニングや外食等、利用者と職員で相談しながら日常の外出を支援している。外出する機会は多く、天気の良い日はできるだけ外にでかけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お小遣いは職員が管理しているが精算は本人に任せている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状や暑中お見舞いを本人が書くための手助けをしたり 電話もいつでも利用してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感が出るような飾りつけをしている。掃除や片付けに気を配り 雑然としないようにしている。	
			(外部評価) 行事等の飾りやベランダの草花で季節感を出している。ダンスや物入れ、畳スペース、ソファ等を配置し、各々が自由に過ごせる空間を確保している。トイレ、廊下、風呂等には適切に手すりをつけて安全を確保し、掃除も行き届いており気持ちよく生活できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下の陽だまりにソファを置いたり、食堂にコタツを置いてくつろげる居場所作りをしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人や家族の意見を取り入れながら、以前から使っているものを持ってきていただいている。壁の飾りなど自由にされている。	
			(外部評価) 家族の協力を得ながら、テレビ、コタツ、ダンス、机、いす、絵、写真など一人ひとり馴染みの物を持ち込んでいる。ベランダで鉢植えの草花を育てたり、洗濯物を干したりと、自分の家のように居心地よく生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下の手すりやトイレ補助バーなど設置し、暗い所や狭くて通れない所がないようにしている。	